

設立50周年を迎えた北千葉 広域水道企業団のこれから

企業長 倉持 俊哉氏



はじめに、企業団の概要と沿革を紹介ください。

倉持企業長 おかげさまで今年3月をもちまして設立50周年という節目を迎えることができました。これまで企業団の用水供給事業の発展に貢献してきた先人、そして現在の職員に敬意を表するともに、企業団の事業

運営に尽力いただいた構成団体をはじめとする関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。昭和48年3月1日に設立されました。

当時、各市町の水道の主な水源は地下水でしたが、水質の悪化や地盤沈下の進行などにより地下水のくみ上げ規制が強化され、地下水の代替水源として河川からの原水確

保が急務となっていました。そうしたなかで当企業団は、水源を江戸川に求め、松戸市に取水場、流山市に浄水場を設置し、その間を約5.5kmの導水管で結び、昭和54年6月に一部構成団体、56年4月に全構成団体への給水を開始しました。

その後も増加する水需要に対応するために施設整備を進め、創設事業が完了したのは平成12年度でした。平成21年度からは、より安全で良質な水道水の安定的な供給を目指して高度浄水施設の



導水管更新事業を推進（管布設前のトンネル内部）

令和3年度時点の1日平均給水量は45万2544立方分で、水道用供給事業としては全国6番目の規模となっております。浄水した水は各構成団体の末端給水事業を通して、7年度からは施設整備を進めています。

令和3年度時点の1日平均給水量は45万2544立方分で、水道用供給事業としては全国6番目の規模となっております。浄水した水は各構成団体の末端給水事業を通して、7年度からは施設整備を進めています。

安定経営維持し用水供給を継続 導水管、送水管更新事業を推進

後、事業運営の方向性に

平成26年12月から高度浄水処理を開始しました。これまで常態的に投入していた粉末活性炭ですが、導入後は年間14日、36日と大幅に減り、1回の投入量もかなりの少なくなっています。

また、かび臭などの原因となる有機物を安定的に取り除くことができ、従来と比べて臭いや味が改善され、地域住民の皆さまからは「水道水が以前よりもおいしくなった」という声をいただいています。

主要施策の現状と今を明らかにしています。



浄水場建設中のようす

また、これらを具体化するものとして、経営戦略を策定しており、現在は令和2年度から11年度までの10年間を計画期間とした「第15次経営戦略」に基づき、計画的に事業を推進しています。

ここでは主要施策を2つ紹介させていただきます。

1つ目が導水管更新事業です。取水場と浄水場を結ぶ約5.5kmの導水管が法定耐用年数を超えています。また、大規模な導水管更新が完了し、2026年度から令和7年度までの6年間で、耐震率は26.4%と

設規模に見合った計画1日最大給水量52万5000立方分を供給できる見込みとなっています。

50年の歴史の中で特に重要な出来事を振り返っていただけますでしょうか。

倉持 1つ目が千葉県

県北西部地域でも震度5

強を記録した東日本大震災での対応です。幸いにして用水供給に大きな影響を及ぼすような地震による水道施設の直接的な被害はありませんでしたが、福島第一原発の事故に起因する放射性物質の被災により、平成23年3月22日から26日までの間、水道水から放射性ヨウ素が検出され、22日には一時的に原子力安全委員会が定めた指標を超える値が検出され、その対応に追われました。放射性物質を迅速に測定できるように、いち早く放射性物質分析装置を導入して、同年の6月20日から

自己検査を開始、現在も週に1回の頻度で測定し結果を公表しています。

なお、平成23年3月28日以降は、浄水から放射性ヨウ素、放射性セシウムが検出されていません。

次に、平成24年5月のホルムアルデヒド生成物質流出事故です。塩素と反応すると、ホルムアルデヒドが生成されるヘキサメチレンテトラミンが利根川水系に流出する大規模な河川水質事故が発生し、当企業団では浄水

先順位をつけて工事を進め、導水管と同様に、既設管と新設管の2条化によりバックアップ機能を向上させることとして

事業は8期に分けて、今年度からは第1期として、軟弱地盤が多い関宿線約15.5kmを対象に着手していきます。

今後に向けては、現在の第15次経営戦略は令和11年度までが計画期間となっていますが、用水供給の料金設定の期間が令和6年度までとなっています。

このため、令和7年度以降の料金設定に当たっての中・長期的な収支見直し等を把握し、中期経営戦略を6年度までに策定しようと考えています。

引き続き経営基盤の強化と健全性の確保を図り、計画的な経営を推進して、水道水の安定した供給を第一義に、主要な施策に取り組んでいきます。

取水場と浄水場については、それぞれ1カ所であることは、効率性が高いというメリットの反面、補完施設がないとい

場を2回にわたる取水停止と送水停止を余儀なくされました。その結果、構成団体の給水区域約36万世帯、約87万人に減断水被害の影響が及ぶ事態となりました。当時の対応では構成団体への初断水被害の影響が及ぶ事態となりました。当時の対応では構成団体への初断水被害の影響が及ぶ事態となりました。

度浄水施設の建設事業です。水源とする江戸川は、生活排水などが各所で流入し、水質は決して良好とは言えず、粉末活性炭処理が常態化しており、特に、突発的な水質悪化では適切な対応が難しくなっていました。

より安全で確実な浄水システムの構築を図るため、恒久的な対策としてオン・オフ生活性炭処理の高

度浄水施設を導入す

として、もう1つが高

度浄水施設の建設事業です。水源とする江戸川は、生活排水などが各所で流入し、水質は決して良好とは言えず、粉末活性炭処理が常態化しており、特に、突発的な水質悪化では適切な対応が難しくなっていました。

より安全で確実な浄水システムの構築を図るため、恒久的な対策としてオン・オフ生活性炭処理の高

度浄水施設を導入す

として、もう1つが高

度浄水施設の建設事業です。水源とする江戸川は、生活排水などが各所で流入し、水質は決して良好とは言えず、粉末活性炭処理が常態化しており、特に、突発的な水質悪化では適切な対応が難しくなっていました。